

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1996
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.44 (1996.),p.35- 36
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000044-0035

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学 事 報 告

学位授与者氏名及び論文題目

修 士 (平成9年3月)

社会学修士 (社会学専攻のもの)

- 第828号 小林 明 ダンスによる心身の変化
—大学生のダンス実技を通して—
- 第829号 後藤かおる 養育観システムにおける親の
養育観とその要因について
—自己指向性を養育価値とする
母親の事例を中心に—
- 第830号 廣瀬 優子 摂食障害の予防についての—
考察
—青年期前期の中学生を対象
にした複数のリスクファク
ターの序列化—
- 第831号 阿佐美雅弘 心理テストフィードバックの
際のバーナム効果について
- 第832号 飯島みどり 成人期における女性の自我同
—性発達に関する考察
- 第833号 池田 緑 グローバリゼーションとアイ
デンティティ
—先行研究の批判的再検討と
理論的再構成への試論—
- 第834号 石渕 雅士 前期K・レーヴィットにおけ
る人間
—共同人の役割を担う個人—
- 第835号 岩崎 雅美 看護婦のバーンアウトとハー
ディネスとの関係についての
—考察
- 第836号 北村麻紀子 自己開示に対する不安
—共感可能性・共有経験・個
別性への気づきとの関係—
- 第837号 金 裕 メディアの議題設定機能に影
響する受け手要因に関する研
究
- 第838号 齋藤 嘉孝 資源動員論とエスニック集団
競合論の相補性に関する—考
察
- 第839号 末盛 慶 職業生活と家庭生活の調和・

統合を求めて

- 「介護休業制度」の利用を
中心にして—
- 第840号 鈴木 晴子 新宗教教団の聖地と神話
—神道天行居を事例として—
- 第841号 鈴木 真理 ロール・プレイングの分析
- 第842号 曹 淑玲 日本人の性意識におけるダブル
・スタンダード
- 第843号 十河 尚子 心理職の国家資格化における
政策過程
—唱道連携モデル (Advoca
cy Coalition Framework)
を分析の視角として—
- 第844号 玉木 香 遊びと楽しみ
—M. チクセントミハイを手
がかりにして—
- 第845号 野田 千裕 在宅ホスピスケアにおける家
族ストレスと家族対処
- 第846号 堀口 悦子 心理社会的要因が睡眠に与え
る影響に関する研究
- 第847号 松尾浩一郎 社会ネットワークの分化と統
合
アーバニズム理論のネット
ワーク論的再構成
- 第848号 真鍋 桃子 イスラエルの国民形成とヘブ
ライ語教育
—集中的ヘブライ語教育機関
ウルバンの考察を通じて—
- 第849号 本嶋 学 社会学的比喩論序説
- 第850号 山本 拓司 近世日本の視覚障害者
—その組織と社会的背景の歴
史社会学的考察—

心理学修士 (心理学専攻のもの)

- 第851号 遠藤 清香 加算・減算を用いる算数文章
題解決行動の分析
—学習障害児の行動改善を
中心として—

- 第852号 川瀬亜希子 乳児のアタッチメントに関する研究
- 第853号 三枝 理江 ウズラにおける視覚的種弁別
- 第854号 旦 直子 乳児における認知発達
- 第855号 辻井 岳雄 顔の認識過程：倒立効果の検討を通じて
- 第856号 保田 聡子 障害のある子供の母親の意識とそれに影響を及ぼす要因：文化の側面と教育システムの観点から

教育学修士（教育学専攻のもの）

- 第857号 大平 恵子 ジョン・デューイの思想と教育論
- 第858号 落合 健一 中学生による数学のテスト場面における日常課題の解決とその解釈の特徴
—数学に対する意識との関わりに注目して—
- 第859号 小林 琢哉 日常場面における規則違反に関する大学生の価値判断

博士（平成8年度）

心理学博士

甲 第1500号 望月 要

ハトのスケジュール誘導性攻撃行動を中心とした
スケジュール誘導性行動の研究

〔論文審査担当者〕

- 主査 慶應義塾大学文学部教授・
大学院社会学研究科委員
文学博士 佐藤 方哉
- 副査 慶應義塾大学文学部教授・
大学院社会学研究科委員
文学博士 渡辺 茂
- 駒沢大学文学部教授
文学博士 小野 浩一

論文審査の要旨

望月要君提出の学位請求論文『ハトのスケジュール誘導性攻撃行動を中心としたスケジュール誘導性行動の研究』は、第1章：本研究の概要、第2章：スケジュール誘導性行動Iに関する諸研究、第3章：スケジュール誘導性行動に関する諸仮説、の3章からなる第I部と、第4章：他個体の強化スケジュールを消去に変えることにより維持されるスケジュール誘導性行動、第5章：標的操作によるSIAのオペラント制御の試み、第6章：SIAと通常の社会場面における攻撃行動との関係、第7章：

強化スケジュールの下で生じるタイムアウト行動、第8章：まとめ、の5章からなる第II部により構成されている。

第I部は、本論文の主題であるスケジュール誘導性行動(schedule-induced behavior: SIB)の諸研究を展望することにより、第II部で報告される著者の諸実験の位置づけを明確にしようとするものである。

ここでの文献展望により明らかにされたのは、以下の諸点である。

1. スケジュール誘導性攻撃(schedule-induced aggression: SIA)は、被験体がハト、オペラント反応がキーつき反応、強化子が餌という条件のもとで生じやすく、そこでは、(1)食餌強化子の間欠的な提示により発現し、強化スケジュールの種類とは無関係である、ただし、すべての被験体に発現するわけではなく、個体差が大きい、(2)スケジュール値とSIA頻度の間には逆U字型の関係が成り立つ、(3)食餌提示間隔におけるSIAの分布には、食餌提示直後に集中して発生する傾向がある、(4)SIAは同種の生きたハト、剥製、模型、写真、鏡のような標的に対して生じる、といった結果がほぼ例外なく示されている。なお、SIAのレスポナント条件づけが可能なることを示唆するいくつかの研究はあるが、オペラント条件づけについての研究はなされていない。

2. スケジュール誘導性多飲(schedule-induced polydipsia: SIP)は、被験体がラットで強化子が餌という条件のもとで生じやすく、そこでは、(1)食餌強化子の間欠的な提示により発現し、強化スケジュールの種類と